公共施設統廃合の受容

―ビネット実験による検証―

Online Appendix

柳　至

1. アテンションチェック

冒頭の同意画面で、「よく読むことに同意して参加する」と「注意深く読むことに同意して参加する」の両方を選択するように依頼し、両方を選択しなかった回答者を除外した。アテンションチェックによる脱落者は 8,720 名であり、通過率は 31%と低い。アテンションチェックの手法としては、主に IMC（Instructional Manipulation Check）と DQS（Directed Questions Scale）という形式がある。本調査で用いたのは IMC であり、調査冒頭の同意画面において調査に関する長い文章を読ませた後に、同意に関する選択肢を 2 つ選択するように指示している。通常の同意画面では 1 つの選択肢のみを選択するため、調査に関する文章を読み飛ばした参加者が多く脱落したものと考えられる。IMC においては、通過率が低くなることと、ノイズ源である不合格者を排除することで、実験の効果が適切に検出できることが報告されている(Oppenheimer, Meyvis, and Davidenko 2009)。外的妥当性についても、IMC に合格した集団と不合格になった集団の間に、年齢、性別といった人口統計学要素や、認知的感受性に関する差がないことが報告されている(Oppenheimer, Meyvis, and Davidenko 2009)。

・引用文献

Oppenheimer, Daniel M., Tom Meyvis, and Nicolas Davidenko. 2009. “Instructional Manipulation Checks: Detecting Satisficing to Increase Statistical Power.” *Journal of Experimental Social Psychology* 45 (4): 867–72.

2. バランスチェック

調査では、Qualtrics のランダム化機能を用いて、無作為割り当ての手続きを行った。バランスチェックの結果は表 A1 の通りであり、各属性について有意差がないことが示されている。

表 A1　バランスチェックの結果

	性別（女性）	年齢	世帯所得	居住地域（三大都市圏内）
シナリオ A	0.47	47.62	6.52	0.48
シナリオ B	0.51 (0.319)	46.68 (0.499)	6.34 (0.536)	0.46 (0.760)
シナリオ C	0.53 (0.150)	46.92 (0.612)	6.44 (0.777)	0.51 (0.489)
シナリオ D	0.52 (0.298)	48.53 (0.508)	6.16 (0.205)	0.46 (0.699)
シナリオ E	0.51 (0.319)	47.58 (0.980)	6.02 (0.086)	0.46 (0.731)
シナリオ F	0.55 (0.079)	47.63 (0.993)	6.40 (0.694)	0.48 (0.986)
シナリオ G	0.53 (0.142)	47.47 (0.915)	6.44 (0.792)	0.53 (0.179)

シナリオ H	0.54	47.74	6.23	0.47
	(0.095)	(0.928)	(0.662)	(0.913)
シナリオ I	0.47	49.36	6.57	0.50
	(0.891)	(0.193)	(0.854)	(0.633)
シナリオ J	0.52	45.38	6.54	0.49
	(0.284)	(0.088)	(0.944)	(0.720)
シナリオ K	0.47	48.25	6.25	0.44
	(0.968)	(0.642)	(0.356)	(0.457)
シナリオ L	0.44	47.74	6.26	0.51
	(0.496)	(0.928)	(0.355)	(0.364)
シナリオ M	0.46	48.94	6.29	0.49
	(0.864)	(0.325)	(0.424)	(0.790)

注：カッコ内はシナリオ A と比較した時の母平均の差の p 値。世帯所得は、14 カテゴリーに区分している。1（100 万円未満）、2（100 万円-200 万円未満）、3（200 万円-300 万円未満）、4（300 万円-400 万円未満）、5（400 万円-500 万円未満）、6 （500 万円-600 万円未満）、7（600 万円-700 万円未満）、8（700 万円-800 万円未満）、9（800 万円-900 万円未満）、10（900 万円-1000 万円未満）、11（1000 万円-1200 万円未満）、12（1200 万円-1400 万円未満）、13（1400 万円-2000 万円未満）、14（2000 万以上）。居住地域の区分については Online Appendix 5 を参照。

3. シナリオ文

シナリオにおける公共施設の要否の判断基準は、実際に公共施設の要否を検討する際に用いられている指標を参照した記述とした。効率性シナリオでは「検討の中で、経済的な効率性という観点から、公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針」を示している。公民館などの集会施設を維持するには人件費や維持補修費などがかかる。例えば、高岡市においては、施設の管理やサービスの効率について、施設管理の費用やサービス提供に関わる人的資源の投入が効率的かどうかによって判断している（高岡市・地方自治研究機構 2018: 143)。

平等性シナリオでは「検討の中で、公共施設の整備状況の平等性という観点から、公共施設が充実している地域の施設から統廃合をする方針」を示している。施設の再編を評価する際に、施設配置のバランスを評価の視点とすることがあり、豊中市、上越市、三豊市、京丹後市、白山市において評価視点として取り入れられている（西野 2015)。

必要性シナリオでは「検討の中で、公共施設の必要性という観点から、稼働率が低い施設から統廃合をする方針」を示している。施設の必要性を考える際には、稼働率や利用率といった指標で判断することがあり、豊中市や三豊市においても指標として用いられている（西野 2015)。稼働率とは、多くの場合、実際に利用された部屋（施設）の枠数を利用可能な部屋（施設）の枠数で除した数値となる。利用率というのは、多くの場合、利用者数を利用対象者人口で除した数値となる。被験者が稼働率や利用率という単語をみた際に、稼働率という指標の方が、実際の指標の内容に沿ったイメージができると考え、今回の調査では稼働率という指標を用いることとした。

表 A2　シナリオ文

リード文 ここまで、調査にご協力いただき、ありがとうございます。質問は残りあと 2 ページとなります。もし仮に次のようなことが起きた場合を想定して、あなたのお考えを教えてください。なお、後で正しく理解しているかの確認を行いますので、注意深くお読みください。
A: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
B: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、地域ごとに地域住民と自治体職員によるワークショップが開催されました。検討の中で、経済的な効率性という観点から、公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたが

これまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
C: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、地域ごとに地域住民と自治体職員によるワークショップが開催されました。検討の中で、地域における整備状況の平等性という観点から、公民館が多くある地域の施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
D: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、地域ごとに地域住民と自治体職員によるワークショップが開催されました。検討の中で、公共施設の必要性という観点から、稼働率が低い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
E: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、住民アンケートが行われました。検討の中で、経済的な効率性という観点から、公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
F: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、住民アンケートが行われました。検討の中で、地域における整備状況の平等性という観点から、公民館が多くある地域の施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。

G: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、計画案に住民の意見を取り入れるために、住民アンケートが行われました。検討の中で、公共施設の必要性という観点から、稼働率が低い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
H: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、大学教授などの有識者の意見を取り入れるために、審議会が開催されました。検討の中で、経済的な効率性という観点から、公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
I: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、大学教授などの有識者の意見を取り入れるために、審議会が開催されました。検討の中で、地域における整備状況の平等性という観点から、公民館が多くある地域の施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
J: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討過程において、大学教授などの有識者の意見を取り入れるために、審議会が開催されました。検討の中で、公共施設の必要性という観点から、稼働率が低い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
K: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討は自治体職員が行っています。検討の中で、経済的な効率性という観点から、公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。

L: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討は自治体職員が行っています。検討の中で、地域における整備状況の平等性という観点から、公民館が多くある地域の施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。
M: あなたが住む自治体が、自治体が保有する公民館について統廃合を検討しています。検討は自治体職員が行っています。検討の中で、公共施設の必要性という観点から、稼働率が低い施設から統廃合をする方針が決まりました。検討の結果、あなたが地区の集まりのために月に 1、2 回利用する公民館について隣の地区にある公民館と統廃合することが決まりました。統廃合をすると、あなたがこれまで利用していた公民館は使えなくなり、隣の地区にある公民館を利用することになります。

・引用文献

高岡市・地方自治研究機構. 2018.「公共施設マネジメントにおける実施基準等の設定に関する調査研究」（http://www.rilg.or.jp/htdocs/img/004/pdf/h29/h29_09.pdf、最終閲覧日 2023 年 10 月 5 日）.

西野辰哉. 2015.「先行自治体による公共施設再編計画の構成と内容に関する考察」『日本建築学会計画系論文集』80 巻 714 号、1775–85 頁.

4. マニピュレーションチェック

本調査では、被験者に適切な刺激が与えられたかを確認するために、マニピュレーションチェックを行った。調査の最後に、被験者に「前の仮のシナリオの文章において、明示的に登場した要素をあげてください（複数選択可)」と尋ねた。選択肢は、「公民館の統廃合」、「地域住民と自治体職員によるワークショップ」、「住民アンケート」、「有識者による審議会」、「自治体職員による検討」、「公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針」、「公民館が多くある地域の施設から統廃合をする方針」、「稼働率が低い施設から統廃合をする方針」の 8 つである。被験者は全員「公民館の統廃合」を選択することが望ましい。結果としては、77.7%の被験者が選択していた。その他の選択肢については、どのシナリオが割り当てられたかによって異なる。例えば、シナリオ B を割り当てられた場合は、「公民館の統廃合」以外に、「地域住民と自治体職員によるワークショップ」と「公共施設利用者一人当たりの利用コストが高い施設から統廃合をする方針」を選択することが望ましい。

表 A3 は、マニピュレーションチェックにおける参加者の選択を示したものである。いずれの場合も、シナリオ内にその要素がない統制群と、ビネットにその要素がある処置群を比較すると、処置群の方がその要素を選択する傾向があることが分かる。すべての項目で、$\chi 2$ 検定の値は.001%の水準で有意であった。

表 A3　マニピュレーションチェックの結果

		統制群	処置群	チェック	
ワークショップ	未選択	2554	296	χ2 =1132.145	***
	選択	194	461		
住民アンケート	未選択	2181	311	χ2 =487.858	***
	選択	539	474		
審議会	未選択	2369	285	χ2 =1067.957	***
	選択	291	560		
行政職員	未選択	2461	433	χ2 =666.602	***
	選択	222	389		
一人当たりの利用コスト	未選択	2239	375	χ2 =1150.130	***
	選択	228	663		
公民館が多くある地域	未選択	2169	495	χ2 =788.959	***
	選択	253	588		
稼働率が低い	未選択	1981	352	χ2 =829.579	***
	選択	436	736		

注：*** p<.001.

5. 居住地域別の公正認知を従属変数とした重回帰分析の結果

居住地については、三大都市圏内と三大都市圏外に分けている。ここでは三大都市圏を埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府としている。これは総務省の資料で、これら 6 都府県を三大都市圏として、三大都市圏における公共施設の老朽化の状況と更新費用を分析したところ、三大都市圏外と比較して、相対的に老朽化が進んでいることが報告されているためである [1]。

表 A 4　居住地別の重回帰分析の結果

ベースライン	モデル1 基準：平等性 意見表明の機会：職員				モデル2 基準：平等性 意見表明の機会：審議会			
	三大都市圏内		三大都市圏外		三大都市圏内		三大都市圏外	
基準：必要性	.12		.08		.12		.08	
	(.07)		(.06)		(.07)		(.06)	
基準：効率性	.07		.04		.07		.04	
	(.06)		(.06)		(.06)		(.06)	
意見表明の機会：ワークショップ	.27	***	.41	***	.30	***	.33	***
	(.08)		(.07)		(.08)		(.07)	
意見表明の機会：住民アンケート	.19	*	.39	***	.22	**	.31	***
	(.08)		(.07)		(.08)		(.07)	
意見表明の機会：審議会	-.03		.08					
	(.08)		(.11)					
意見表明の機会：職員					-.03		-.08	
					(.08)		(.07)	
記述なし	-.17		.11		-.14		.03	
	(.12)		(.12)		(.12)		(.10)	
定数	-.14	*	-.25	***	-.17	**	-.17	**
	(.06)		(.06)		(.06)		(.06)	
N	1462		1576		1462		1576	
R^2	.024		.034		.024		.034	
Adjusted R^2	.020		.030		.020		.030	

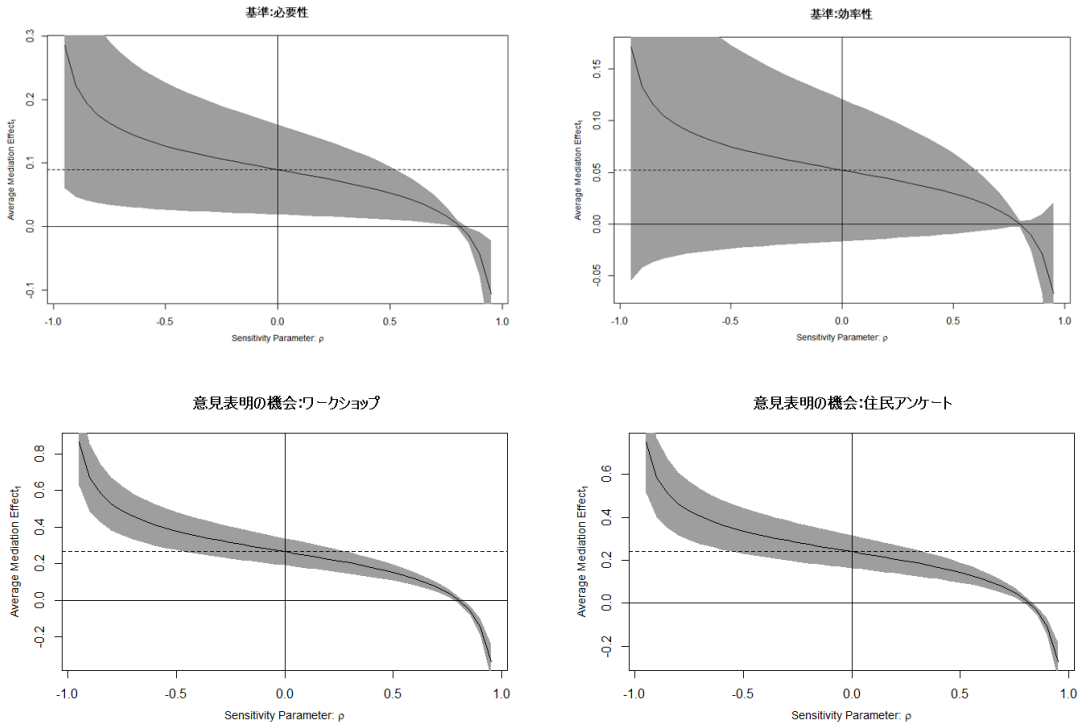
注：***p<.001, **p<.01, *p<.05。数値は非標準化係数。() 内はロバスト標準誤差。

[1] 総務省（n.d.）「三大都市圏等関連資料」（https://www.soumu.go.jp/main_content/000354244.pdf、2023 年 10 月 5 日最終閲覧）.

6. 感度分析の結果

感度分析では、未測定の交絡因子によって因果効果の推定値がどの程度歪められるかを検証している。この分析では、ACME が処置変数の値に反応してどのように変化するかを分析している。以下の分析結果は、交絡因子の介在によって ACME がゼロになる可能性は低いことを示している。

図 A1　感度分析の結果



7. 結果の好みに応じた意見表明の機会の効果

本文で示した結果の好みと意見表明の機会（住民ダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果が表 A5 である。この分析では、ワークショップシナリオと住民アンケートシナリオを統合した住民の意見表明シナリオと職員シナリオの比較を行っている。

表 A5　結果の好みと意見表明の機会（住民ダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果（職員シナリオとの比較）

	Est.	S.E.	t	p
意見表明の機会（住民ダミー）	0.45	0.15	3.081	**
結果の好み（公民館統廃合）	0.46	0.04	12.912	***
意見表明の機会（住民ダミー）*結果の好み（公民館統廃合）	-0.10	0.04	-2.232	*
定数	-1.51	0.12	-12.846	***
N	2184			
R^2	0.14			
Adjusted R^2	0.14			

注： ***p < 0.001,**p < 0.01,*p < 0.05.

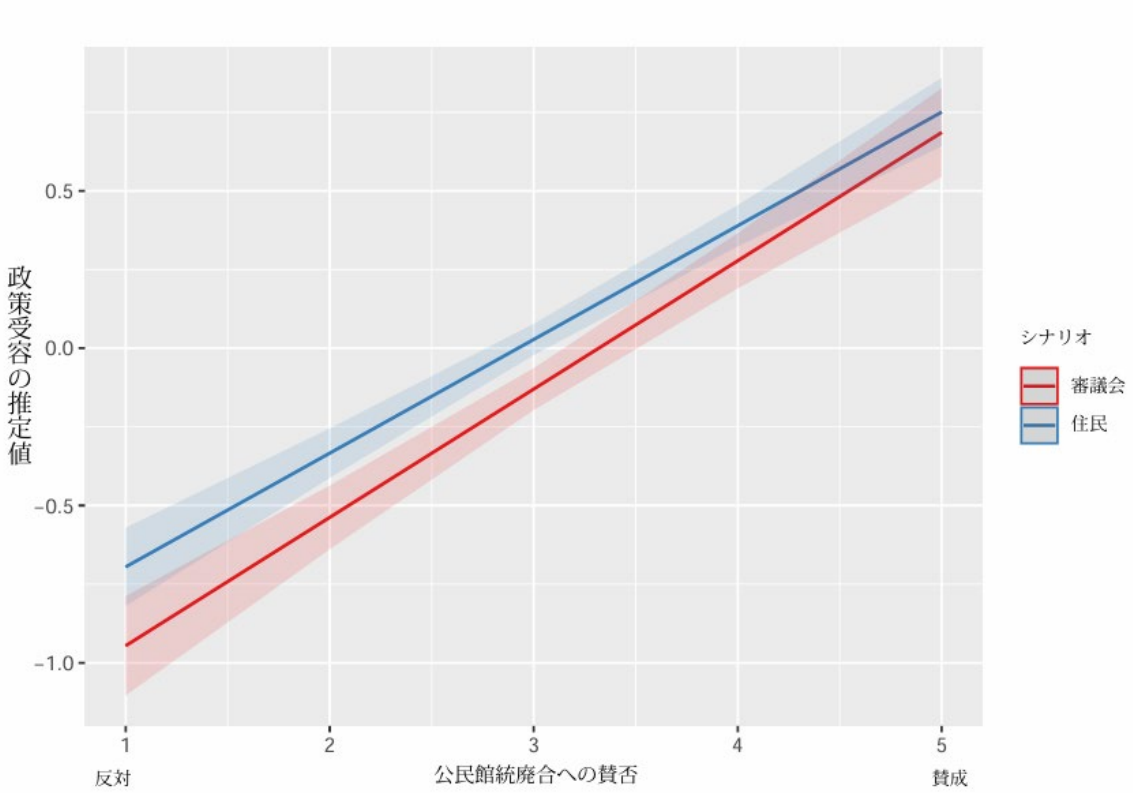
次に、住民の意見表明シナリオと審議会シナリオの比較を行った結果を示す。結果の好みと意見表明の機会（住民ダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果が表 A6 である。推定結果に基づき、結果の好みが政策受容に与える影響をシナリオ別に示したものが図 A2 である。

表 A6　結果の好みと意見表明の機会（住民ダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果（審議会シナリオとの比較）

	Est.	S.E.	t	p
意見表明の機会（住民ダミー）	0.30	0.14	2.080	*
結果の好み（公民館統廃合）	0.41	0.03	11.953	***
意見表明の機会（住民ダミー）*結果の好み（公民館統廃合）	-0.05	0.04	-1.071	
定数	-1.35	0.11	-12.065	***
N	2201			
R^2	0.13			
Adjusted R^2	0.13			

注： ***p < 0.001,**p < 0.01,*p < 0.05.

図 A2　結果の好みに応じた意見表明の機会の効果
（住民シナリオと審議会シナリオとの比較）



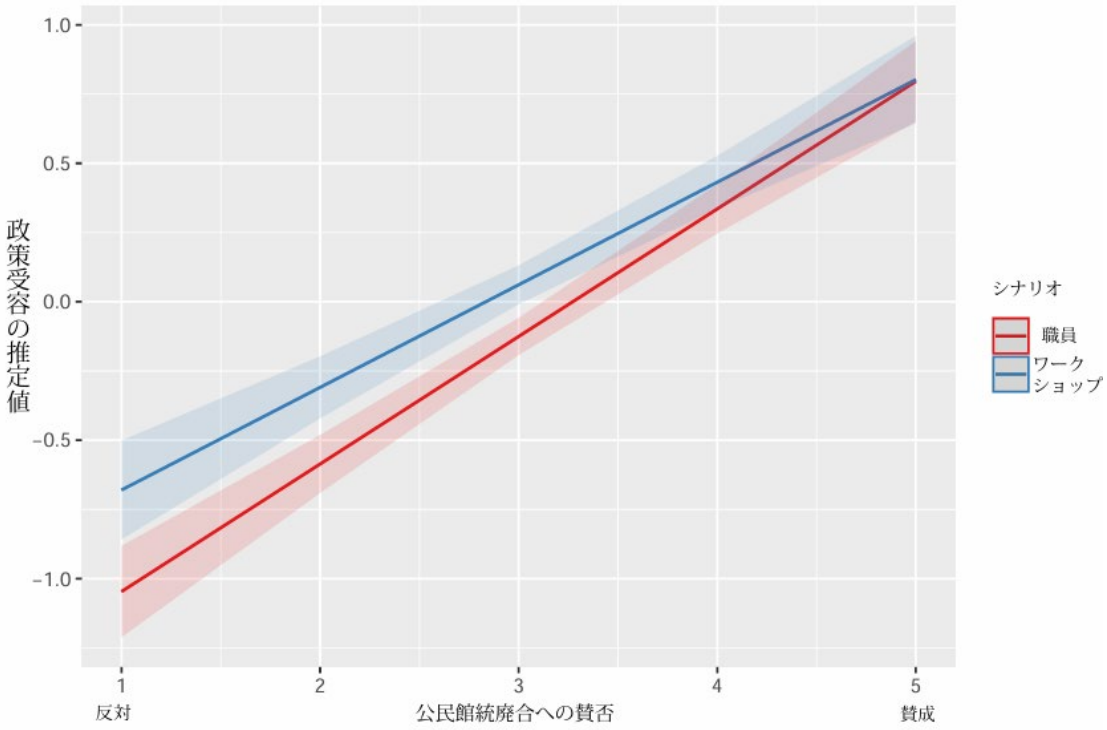
次に、ワークショップシナリオと職員シナリオの比較を行った結果を示す。結果の好みと意見表明の機会（ワークショップダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果が表 A7 である。推定結果に基づき、結果の好みが政策受容に与える影響をシナリオ別に示したものが図 A3 である。

表 A7　結果の好みと意見表明の機会（ワークショップダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果（職員シナリオとの比較）

	Est.	S.E.	t	p
意見表明の機会（ワークショップダミー）	0.46	0.17	2.634	**
結果の好み（公民館統廃合）	0.46	0.04	12.899	***
意見表明の機会（ワークショップダミー）*				
結果の好み（公民館統廃合）	-0.09	0.05	-1.704	
定数	-1.51	0.12	-12.833	***
N	1454			
R^2	0.16			
Adjusted R^2	0.15			

注： ***p < 0.001,**p < 0.01,*p < 0.05.

図 A3　結果の好みに応じた意見表明の機会の効果
（ワークショップシナリオと職員シナリオとの比較）



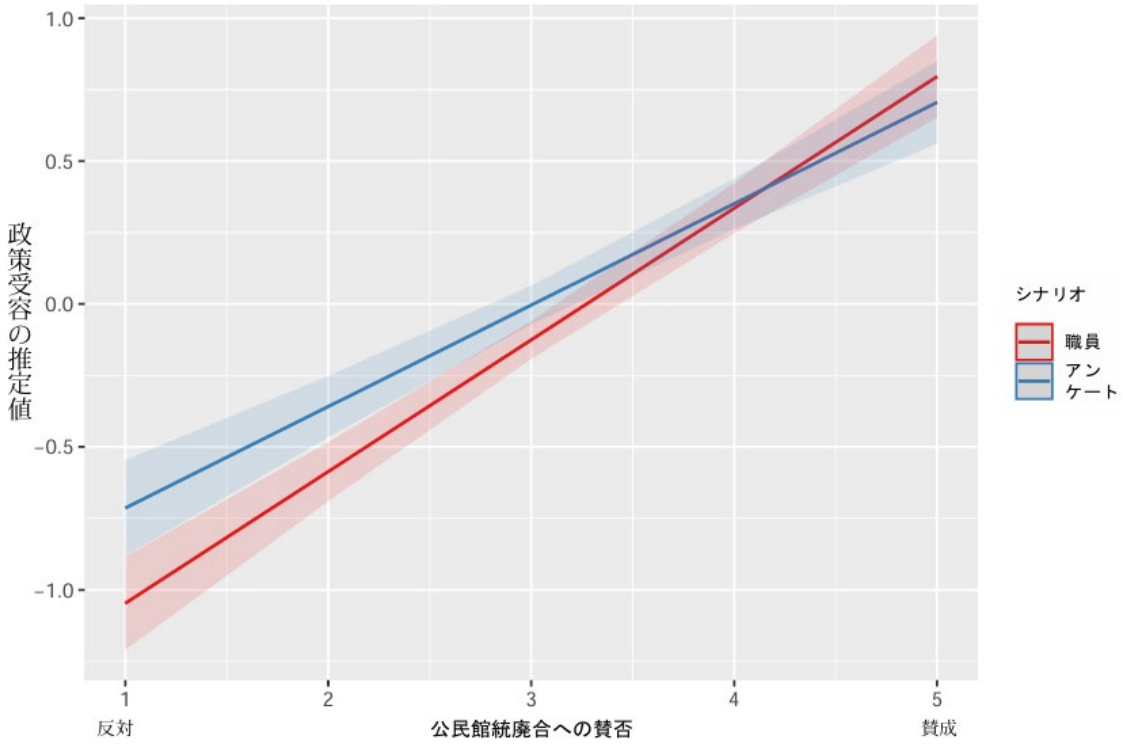
最後に、住民アンケートシナリオと職員シナリオの比較を行った結果を示す。結果の好みと意見表明の機会（アンケートダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果が表 A8 である。推定結果に基づき、結果の好みが政策受容に与える影響をシナリオ別に示したものが図 A4 である。

表 A8　結果の好みと意見表明の機会（アンケートダミー)、およびその交差項を独立変数とした重回帰分析の結果（職員シナリオとの比較）

	Est.	S.E.	t	p
意見表明の機会（アンケートダミー）	0.44	0.17	2.645	**
結果の好み（公民館統廃合）	0.46	0.04	13.079	***
意見表明の機会（アンケートダミー）*結果の好み（公民館統廃合）	-0.11	0.05	-2.107	*
定数	-1.51	0.12	-13.012	***
N	1491			
R^2	0.16			
Adjusted R^2	0.15			

注： ***p < 0.001,**p < 0.01,*p < 0.05.

図 A4　結果の好みに応じた意見表明の機会の効果
（住民アンケートシナリオと職員シナリオとの比較）



8. 必要性と効率性の全体効果の解釈について

本調査においては、実験の処置の前に、一般的に「衡平性」、「必要性」、「平等性」のうち、どの基準をもっとも好むかを質問した。質問文は以下の通りである。選択肢は、「実績をあげた人ほど多く得る」、「必要な人が必要なだけ得る」、「だれもが同じぐらい得る」であり、それぞれ衡平性、必要性、平等性の基準に対応している。結果として、全体の58.6%が衡平性を、29.7%が必要性を、11.6%が平等性を選択した（N=3505)。衡平性は、本文内で述べたように、経済的生産性の向上を志向する観点からは効率性と親和的な基準である。

どのような人が高い地位や経済的な豊かさを得るのがよいかという点について、次のような意見があります。あなたのご意見に最も近いものを 1 つお答えください。

実績をあげた人ほど多く得る
必要な人が必要なだけ得る
だれもが同じぐらい得る

本研究で行った因果媒介分析においては、公正さによる平均因果媒介効果（ACME）と、各基準の直接効果（ADE)、それらをあわせた全体効果を推計する。この直接効果は公正さ以外の観点から各判断基準を受け入れられるかをあらわしており、もともとの分配原理の好みに影響されていることが考えられる。もともとの分配原理の好みによって政策の判断基準の効果が異なるかを検証するために、配分原理の好みをサブグループとした分析を行った。図 A5 から A7 は公正認知を媒介変数として政策受容を従属変数とした因果媒介分析とその感度分析の結果であり、衡平性、必要性、平等性という配分原理の好みごとに分析をしたものである。

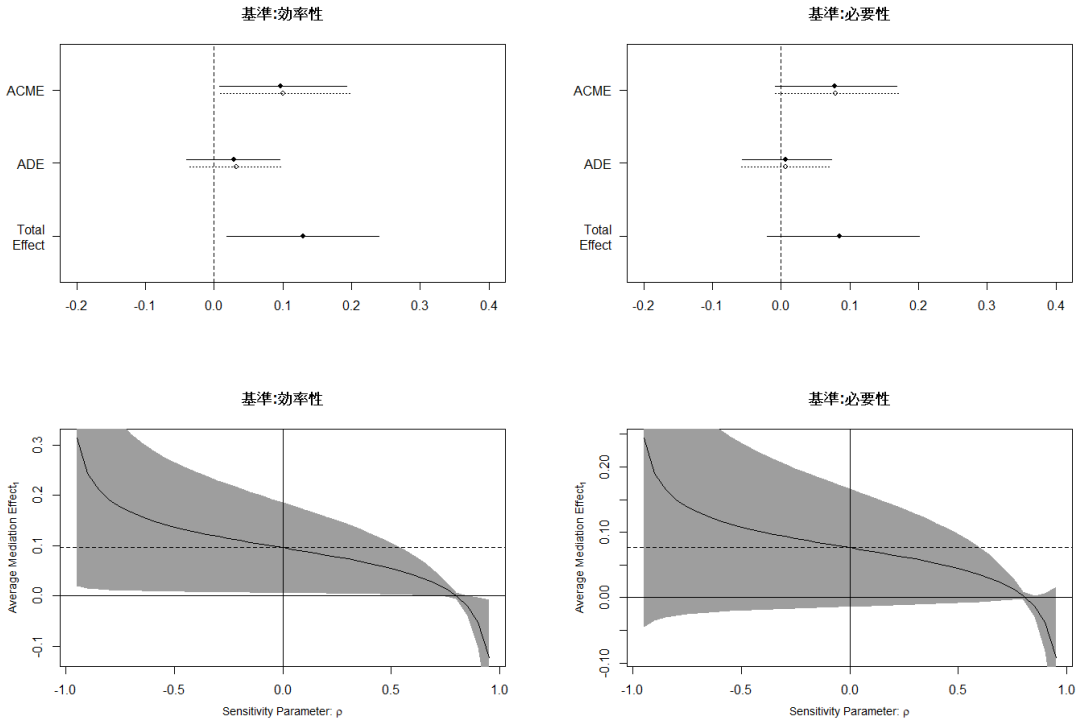
結果としては、いずれのタイプの人であっても、効率性の直接効果（ADE）は統計的に有意でないもののポジティブな結果を示していた。平均因果媒介効果（ACME）については、衡平性を好む人はポジティブな結果を示している（5%水準で有意)。平等性を好む人においては、平均因果媒介効果はネガティブだが、直接効果はポジティブな傾向を示しており、効率性という要素は公正さ以外の観点から受け入れられている基準であることがわかる。このことから、本文で示したように、全体のサンプルにおける全体効果としてもポジティブな結果となっている（5%水準で有意)。

他方で、必要性という要素の直接効果は、必要性や平等性を好む人においてネガティブであり、衡平性を好む人においてもポジティブであるものの、ほとんど 0 に近い数値となっている。平均因果媒介効果についてはいずれのタイプにおいてもポジティブであり、本文で示したように、全体のサンプルにおける平均因果媒介効果もポジティブである（5%水準で有意)。必要性という基準は、公正であるものの、それ以外の観点からは受け入れ

がたいと考えられている傾向がみられる。

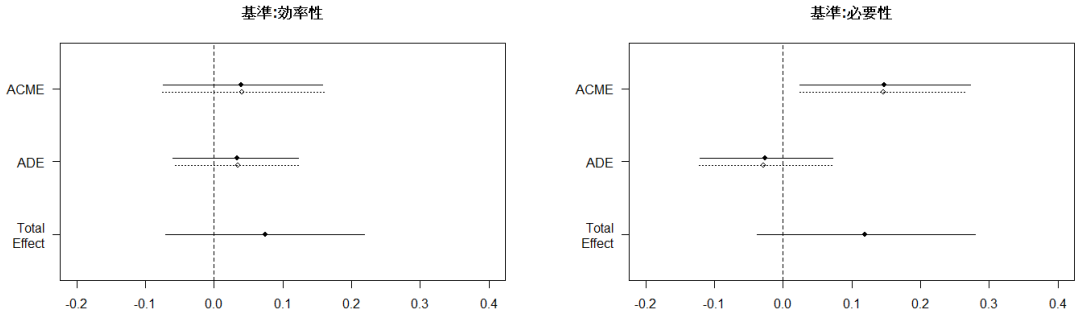
このように、もともとの分配原理の好みに関わらず、公共施設の統廃合という局面においては、効率性という基準が、公正さという観点以外から人々に受け入れられやすく、全体のサンプルにおける全体効果も統計的に有意にポジティブなものとなっているが、必要性という基準については公正さ以外の観点からは受け入れがたいとみなされており、全体効果も統計的に有意な効果を示していない。

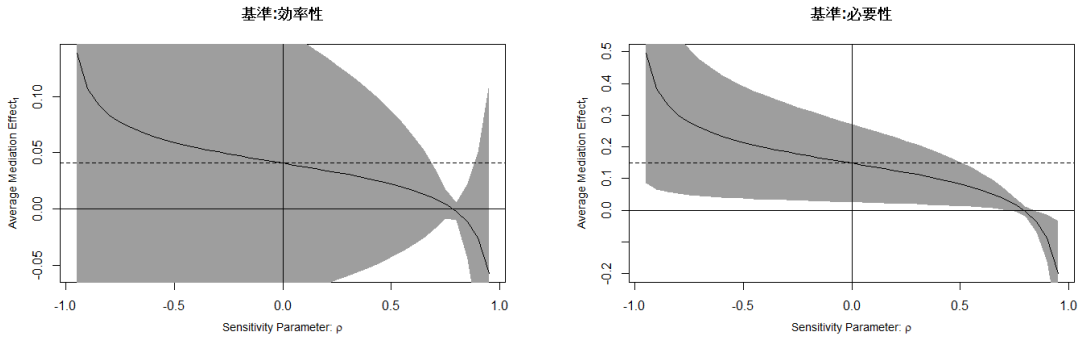
図 A5　衡平性を好む人の因果媒介分析と感度分析の結果



注：エラーバーは 95%信頼区間（ロバスト標準誤差）

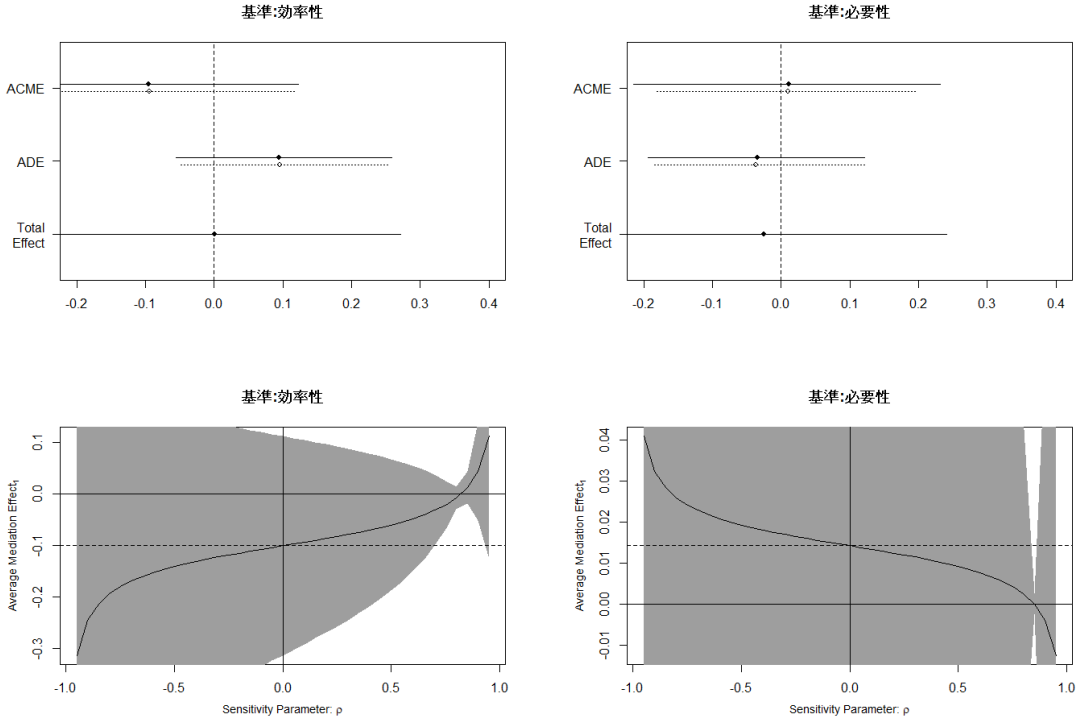
図 A6　必要性を好む人の因果媒介分析と感度分析の結果





注：エラーバーは 95%信頼区間（ロバスト標準誤差）

図 A7　平等性を好む人の因果媒介分析と感度分析の結果



注：エラーバーは 95%信頼区間（ロバスト標準誤差）